

東京学芸大学公開研究会

「教員養成機関の自律的な質保証を求めて」



東京学芸大学では、平成 22 年度から平成 25 年度の 4 年間で「教員養成評価等に関する調査研究（教員養成評価プロジェクト）」として教員養成教育の質的向上に資するアクレディテーションのあり方について調査研究を行っています。

今年度は 3 大学（東京学芸大学、岡山大学、玉川大学）において試行評価を実施し、その報告等を行う公開研究会を 11 月 17 日にオフィス東京（東京都中央区）で開催し、国公私立の大学教職員、教育委員会事務局職員、学校教員等学内外から合わせて 80 名が参加しました。

公開研究会の冒頭で同プロジェクトを担当する東京学芸大学の佐藤准教授から、開発中の教員養成教育のアクレディテーション・システムのコンセプトとして、内部質保証を重視し、ピアレビューを中心とする相互に学び合うコミュニティを構築したいこと、参加は任意であること、国公私立約 600 大学を対象としうること等、これまでの検討内容報告を行いました。

その後、東京学芸大学、岡山大学、玉川大学において試行評価の一環としての自己分析を主に担当した各大学の教員と東京学芸大学の試行評価を主査として担当した他大学の教員から試行評価によって得られた知見や示唆、同プロジェクトの検討内容へのフィードバック等について報告があり、引き続きそれらの報告について参加者全体での質疑応答及びディスカッションが活発に行われました。

最後に東京学芸大学では、教員養成評価プロジェクトの成果を踏まえ、来年度から少なくとも 20 大学程度の協力を得て相互評価活動を行う「日本型教員養成教育アクレディテーション・システムの開発研究」の実施を予定しているとの説明があり、参加者の所属大学でも同開発研究への参加を検討願いたいとの呼びかけが行われ、盛況のうちに閉会しました。